

この原稿を書いている時点で連日の猛暑。マイっています。今からこんなじゃ、7、8月はいったいどうなるのか？ いっぽう、6月4日に聴いた初来日“デュオ・アストル”はCDより全然上手くて、文句なく爽やかな印象を残しました。

さて、今回は暑さで手抜きしたわけではありませんが、インタビュー形式からスタイルを変えて3人のメンバーに自由にお喋りしていただきました。埼玉県志木市で練習を重ねる女性三重奏団、スペイン語で「桜」を意味する「セレーサス」。佐野正隆先生の指導で活動は約20年になるそうです。「重奏フェスティバル」でも常連ですね。創立当初からのメンバー柳瀬川みずほ、アメリカ帰りの川越若葉、そして10年前メンバーに加わった志木夏子、以上はお住まいの東上線沿線の地名に因んだ3人の芸名(?)とのことです。ではどうぞ。柳瀬川(以下柳)：ところで最近いちばん多く演奏したのは〈オリーブの首飾り〉よね。川越(以下川)：ノリも良いし誰でも知っているし、あまりむずかしくないし(笑)。



左より、「川越若葉」こと山本美和、「志木夏子」こと今井美代子、「柳瀬川みずほ」こと田村節子。2004年1月のコンサートの合間に撮影。

「OZ」のCDにも入っていたよね。あとは〈ラ・クンパルシータ〉と〈アランプラの想い出〉。

柳：でもこれまででメンバーにいちばん人気があるのは〈エル・チョクロ〉じゃない？

志木(以下志)：私は〈ジ・エンターテイナー〉がいちばん好き。簡単そうだけど実はとてもむずかしくて、あまり人前では弾いてないけど。

柳：重奏フェスティバルのときは、震えながら弾いたわね。思い出しただけでも冷や汗が吹き出すわね(笑)。

川：むずかしいと言えば〈エル・チョクロ〉も苦労したわよ。この曲もOZのCDに入っているけど、私はあの速いスケールが弾けないので少し簡単にしてもらったの。「重奏フェスティバル」で震えながらもしっかり弾けたのは、長い間大事に弾き続けてきたからね。

志：私たちも苦労しましたが、いちばん苦労なされたのは佐野先生では。特にイントロは先生泣かせだったかも……。

越：ところで今“私たちの話題”といえ、そりゃ何と言っても「重奏フェスティバル」。失敗したり震えたりしながら、ああまた今年もそのときが近づいてきたわ。

志：今年は「冬のソナタ」から〈最初から今まで〉と〈ベサメ・ムーチョ〉の2曲を弾きます。聴いてくださる方が退屈しない曲選びと思いますし、弾いていてとても楽しいです。

川：でもフェスティバルのときは、アガッてしまい、練習の成果を出せないときもあるじゃない。なんかいいおまじないはないものかしらね。

志：ひたすら練習しかないのでは？

柳：あのね、私が今考えていることは、曲に合わせた身体作りなの。〈最初から〜〉にはキムチを、〈ベサメ〜〉には血のしたたるようなレアのステーキを……というの

はどうかしら？

志：我が家は子供たちが独立して夫婦2人なので食事がさっぱり系なんです。じゃ、今月からは週に1度はキムチとステーキにしてみます(笑)。

川：私たちもこのメンバーになって何年かしら？ もう10年になるのねえ。ケンカもしないでよく続いているわ。

志：こんな楽しいことでケンカなんかしてられませんよね。

川：今年の夏も地域のお祭りやお年寄りの会などで弾かせてもらおうし、楽しんでもらえて嬉しいことね。

柳：夢はやっぱり「セレーサス」だけのコンサートを開きたいわね。今は3人とも仕事があるから、いつとは言えないけど、きっとやりましょう！

志：会場は？

柳：もちろん日本武道館！

川、志：そりゃ、ちょっと無理だア(爆笑)。

さていかがでしたでしょうか。この「セレーサス」は本コーナーには2度目の登場なのですが、“今は別の「セレーサス」です”とのこと。グループとしての変遷はいろいろあったのですが、それらを経て作り上げられた強い絆を“今のセレーサス”に感じました。でもそれだけに“今のところ新メンバーは募集していない”とはちょっと残念。でも皆さん、「セレーサス」のステージを聴く機会があったら、その自慢の団結力と華やかさに拍手を贈りましょうね。とても洒落た手作りの譜面台カバーにも注目。

練習場所：志木市館志木ニュータウン
集会所(東武東上線柳瀬駅)
練習日：毎週土曜日(13時~16時)
会費：必要に応じて
問い合わせ先：田村節子
〒353-0006埼玉県志木市館2-1-3-502
☎048-474-7928
cerezas8@hh.e-mansion.com

●これが私たちの自慢です！

団結力が私たちの自慢……ということでおののけたところを見せるべく、合図や音の取め方など佐野正隆先生にはステージでの「見栄え」も厳しく指導していただいています。見栄えといえば、昨年新調した「真紅のロング」がまたまた自慢です(笑)。なんて書くといかにもハダハダみたいですが、演奏が終わって退場するときの私たちの後ろ姿……「以外と清楚なのね」って(ホントよく言われるんですよ！)、これがいちばんの自慢かも。

アンサンブル探訪 147

文：中島晴美

団結力と華やかなステージ、そして清楚な後ろ姿！

セレーサス

アンサンブルの広場は日本ギター合奏連盟のページです。